

幼児期に関わる指導者の教育観に対する探索的分析  
— さつまいも掘りに焦点を当てた現職教諭と養成課程の比較 —

An Exploratory Study of Educators' Views on Early Childhood Education:  
Comparing In-service and Pre-service Teachers Through Sweet Potato Harvesting

宇都宮 俊星\*, 村田 裕柊\*

UTSUNOMIYA Shunsei\*, MURATA yuto\*

\*藤沢翔陵高等学校

[要約] 社会の潮流に伴い、学校教育では「生きる力」の育成が求められている。そうした「生きる力」の基盤として重要な位置づけにあるのが幼児教育である。本研究では、幼児教育の中でも、さつまいも掘りに焦点を当てて現職の幼稚園教諭と養成課程の学生の教育観を比較した。結果として現職教諭は、養成課程と比較してさつまいも掘りを取り巻く様々な要素（例えば、苗植えからの成長や虫の発見など）にも価値を感じている。養成課程では、現職教諭と比べ、協働的（協同的）な学びが重要であると考えているということが示唆された。本研究をもとに、幼児教育に関わる養成プログラムの開発などに活用することが望まれる。

[キーワード] 社会情動的スキル, 非認知能力, 質問紙調査, 特徴語, 対応分析

## 1. 緒言

急速な科学技術の発展をはじめとする社会の変化に対応するべく、学校教育では「生きる力」の育成が求められている。各教育段階において、様々な取り組みが実践されていく中で、生きる力の基盤を担う重要な教育課程として幼児教育が挙げられる。ここでの「基盤」とは、知識のみを先取りするような早期教育を指すものではない。

前述した学校教育における「生きる力」のはじまりとして、幼児教育は、知識や技能に加え、思考力・判断力・表現力などの「確かな学力」や「豊かな人間性」、たくましく生きるための「健康・体力」からなる「生きる力」の基礎としての「後伸びする力」の育成を担っている<sup>(1)</sup>。

こうした教育は、社会情動的スキル（あるいは、非認知的スキル）と呼ばれ、幼児期や青年期において重要な位置づけがされ注目されている（OECD,2018）。

例えば、幼児教育と非認知能力の関係につ

いて、秋田(2019)は、幼稚園での社会情動的スキル（非認知能力）の概要に解説している。他にも鈴木(2021)は、幼児期においてからだを動かす遊び体験が非認知能力の醸成に影響を与えることを示している。

### 1-1. 環境教育としての観点

幼児教育と環境教育は、深い結びつきがある。例えば、幼稚園教育要領<sup>(2)</sup>には、「幼児期の発達」として「環境」との関わり合いが、能力や態度の獲得に対して重要であると記載されている（ここでの「環境」は自然環境に留まらず、人を含めた幼児を取り巻く環境すべてを指している）。他にも、吉野(2025)は、参与観察の手法を通して「自然環境は幼児の心を動かす魅力的な教材である」と説明している。また、環境に関わるものとして、五感体験が挙げられるが、金城・趙(2025)は、嗅覚に焦点を当てて先行研究の調査を行っており、嗅覚の重要性およびその影響に関する記述から、嗅覚に関する体験が多様な影響を与え、非認知能力の形成にも寄与

する可能性を示している。

これらをふまえて、環境教育が幼児期にとって重要な学びになりうると同時に、幼児教育を学びの基盤として捉えて考えると、幼児教育における環境教育は、その後の環境理解への基盤にもなりうるだろう。

## 2. 目的

本研究は、自然環境との関わりの中でも、一般的な「さつまいも堀り」に焦点を絞る。幼児教育では、さつまいも堀りのような取り組みを「行事」として扱うことも多い。「行事」という観点で考えた際に、青戸・菊池・田邊 (2019) は、保育・教育者を対象としたアンケート調査をもとに「日常の保育活動とは異なる経験を得ることになる」と述べており、重要な取り組みとして位置付けられていることが伺える。こうした取り組みを指導者がどのように捉えているのかを整理することは非常に大きな価値がある。

本研究では、さつまいも堀りに対する捉え方をもとに、幼児教育における指導者の考え方を、現職の教諭と養成課程の学生で比較し、整理することを目的とする。

## 3. 方法

本研究では、さつまいも堀りに対する捉え方を整理するため、現職の幼稚園職員と養成課程として教育学部の学生に対して調査を行った。

### 3-1. 調査形式について

まず、質問紙調査を郵送法とオンライン調査 (google フォーム) の方法で分けて実施した。幼稚園教諭に対しては、勤務時間中にオンライン回答が難しい場合もあるため、紙媒体の方が回答しやすいと判断して郵送法を採用した。郵送法では、紙媒体の質問紙と返信用封筒を対象者へ郵送し、記入後に返送してもらう形式とした。次に、教育学部に通う学生には、日常的にオンライン環境を利用し

ていることから、Google フォームによるオンライン調査を採用した。また、オンライン形式は学生にとってアクセス性が高く、回答の負担を軽減できると考えた。

### 3-2. 調査対象者について

神奈川県藤沢市の HP に記載される「幼稚園・幼児教育施設-市内幼稚園一覧」<sup>(3)</sup> の 32 園すべてに質問紙を郵送した。

次に、将来的に幼児教育に携わるであろう教育学部の学生に依頼することとした。神奈川県にある幼稚園・小学校教諭の免許が取得できる K 大学の学生に依頼した。

調査時期は、幼稚園教諭に対しては 2025 年 6 月～7 月に実施し、大学生に対しては 8 月～10 月に実施し回答していただいた。

質問紙の形式やその詳細についてを表 1 と表 2 に示す。各質問紙中で使用した設問には、表 2 で「○」をつけた。

表 1: 質問紙の形式と方法

対象	時期	方法	扱い
幼稚園職員	2025 年 6～7 月	郵送法	A
大学生	2025 年 8～10 月	オンライン 調査	B

表 2: 質問紙での設問と扱い

番	設問内容	A	B
問 1	現在、ご担当の学年を教えてください	○	
問 2	現在の就歴を教えてください	○	
問 3	貴園でサツマイモ堀りを実施していますか	○	
問 4	貴園で実施している作物収集やその他(サツマイモを除く)の野外行事を具体的に教えてください。	○	
問 5	現在の学年を教えてください		○
問 6	現在、志望している進路を教えてください		○
問 7	幼児教育の中で自然を感じる体験と	○	○

して、サツマイモ掘りはどのような役割があると思いますか？

サツマイモ掘りとその他の野外行事

問 8 とでは自然の感じ方にどのような違いがあると思いますか？ ○ ○

問 9 五感を使った体験は児童に対して、どのように影響すると思いますか？ ○ ○

※)「番」は本稿で、便宜上設定している。後述する表4~表8の「問」の列に対応している。

#### 4. 結果

本研究では、藤沢市市内の幼稚園から20件、k大学の学生から103件の回答を得た。

回答で来た結果を以下のようにまとめる(表3~5)。

表3：質問紙の回収について

	発送数	回答数	回収率
市内幼稚園	32園	20件	62.5%
k大学	-	103件	-

表4：幼稚園での回答

選択肢	1	2	3	4	5	total
問1	0人	0人	5人	15人	-	20人
問2	0人	0人	0人	4人	16人	20人
問3	20人	0人	-	-	-	20人

※) 1~5の行が各設問における選択肢を示している。

表5：大学生による回答

選択肢	1	2	3	4	5	total
問5	0人	52人	51人	0人	-	103人
問6	15人	21人	57人	3人	7人	103人

##### 4-1. 回答属性について

###### 幼稚園での回答(表4)

設問1「現在、ご担当の学年を教えてください」

1. 「年少」、2. 「年中」、3. 「年長」、4. 「その他」の選択肢で回答を聞いた。15名が「その他」を回答しており、理事長などが

2名、園長が2名、副園長が4名、主任などが2名、異年齢保育などが2名、不明が3名であった。回答属性として現場の中でも俯瞰的な視点を持つ立場の方に回答していただいた。

設問2「現在の就歴を教えてください」

1. 「1年未満」、2. 「1年以上3年未満」、3. 「3年以上5年未満」、4. 「5年以上10年未満」、5. 「10年以上」の選択肢で回答を聞いた。回答の全てが10年以上、ほとんどが15年以上勤務された経験があり、幼児教育に対して深い理解のある方に回答をいただいた。

設問3「貴園でサツマイモ掘りを実施していますか」

1. 「はい」、2. 「いいえ」の2件法で回答を聞いた。今回、回答して下さったすべての園でさつまいも掘りを実践しているという結果となった。

###### 大学生による回答(表5)

設問5「現在の学年を教えてください」

1. 「1年生」、2. 「2年生」、3. 「3年生」、4. 「4年生」の選択肢で回答を聞いた。

設問6「現在、志望している進路を教えてください」

1. 「保育士」、2. 「幼稚園教諭」、3. 「小学校教諭」、4. 「塾などの選択肢外の教育関係」、5. 「その他」で回答を聞いた。

##### 4-2. 自由記述の「特徴語」と「対応分析」

本研究では、幼児教育に携わる指導者と養成課程の学生の比較を行う為、設問7~9における自由記述をKH Coder3(Beta)の「特徴語」と「対応分析」を用いて分析する。対応分析では、設問6で聞いた1. 「保育士」、2. 「幼稚園教諭」を合わせて「幼児教育志望」とし、「現職教諭」と比較する(図1~3、表6~8)。なお、対応分析はいずれも、最小出現数：5、分析語数：上位60語で設定している(基本設定)。

表 6：設問 7 における「特徴語」

現職教諭		幼児教育希望		その他	
特徴語	類似度	特徴語	類似度	特徴語	類似度
土	.368	掘る	.250	自然	.205
喜び	.364	食	.217	役割	.171
収穫	.345	さつま	.196	食べ物	.169
サツマイモ	.259	土	.172	達成	.147
堀	.250	自然	.167	触れる	.137
味わう	.238	自分	.154	大切	.083
感謝	.231	知る	.128	作る	.071
掘る	.219	感じる	.125	学ぶ	.060
虫	.217	サツマイモ	.111	出る	.058
食べる	.207	友達	.103	植物	.058

総抽出語数 (使用) : 2,697(1,207)  
 異なり語数 (使用) : 468(361)

※) 表中の「類似度」とは、Jaccard 類似度を指し、集合間の類似性を評価する尺度である。

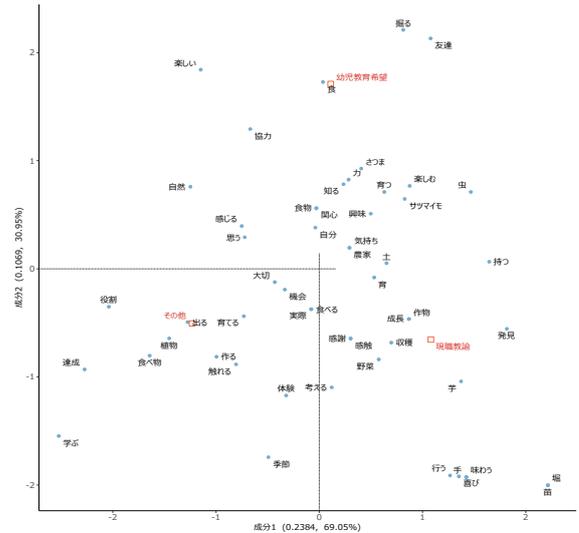


図 1：設問 7 における「対応分析」

表 7：設問 8 における「特徴語」

現職教諭		幼児教育希望		その他	
特徴語	類似度	特徴語	類似度	特徴語	類似度
収穫	.280	自然	.214	実際	.180
土	.276	実際	.151	自分	.145
芋	.238	自分	.120	思う	.133
園	.200	触る	.079	違い	.099
保育	.200	食べ物	.079	野外	.085
知る	.191	他	.077	手	.071
思う	.188	食	.073	出来る	.071
体験	.188	季節	.071	違う	.057
掘る	.185	野外	.070	見る	.057
野菜	.182	肌	.054	恵み	.045

総抽出語数 (使用) : 2,566(1,129)  
 異なり語数 (使用) : 489(368)

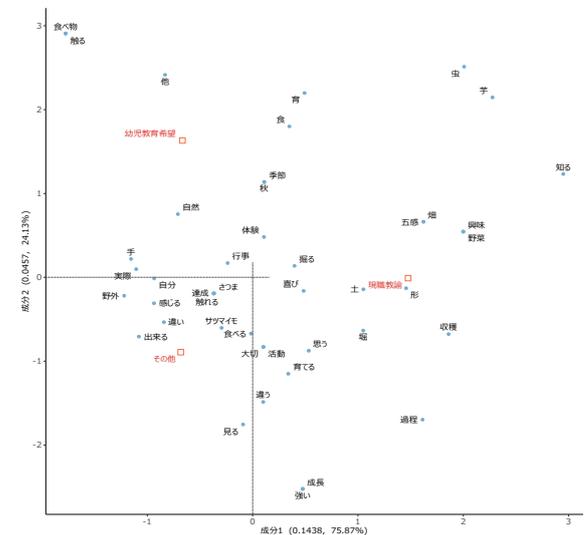


図 2：設問 8 における「対応分析」

表 8：設問 9 における「特徴語」

現職教諭		幼児教育希望		その他	
特徴語	類似度	特徴語	類似度	特徴語	類似度
体験	.393	豊か	.244	感性	.139
心	.381	子ども	.133	発達	.114
五感	.346	成長	.128	影響	.111
子ども	.346	感性	.109	出来る	.074
力	.300	残る	.093	記憶	.058
考える	.261	感受性	.081	実際	.058
思う	.235	想像	.081	学ぶ	.044
知る	.227	楽しむ	.079	今後	.044
感じる	.200	育てる	.077	将来	.044
使う	.192	自分	.071	経験	.044

総抽出語数 (使用) : 2,623(1,167)  
 異なり語数 (使用) : 577(442)

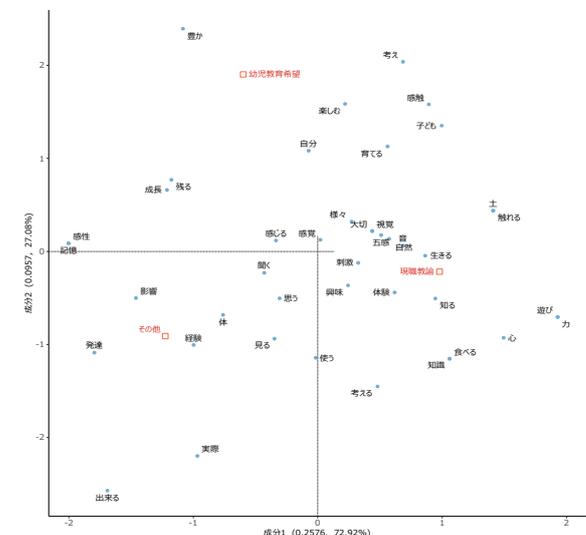


図 3：設問 9 における「対応分析」

### 4-3. 幼児期に目指す姿を参考にした分析

設問7「幼児教育の中で自然を感じる体験として、サツマイモ掘りはどのような役割があると思いますか?」(表2)について更なる分析を行った。分析にあたり文部科学省の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」<sup>(4)</sup>(以降、幼児期に目指す姿という)を参考にし、回答に含まれる要素を分類した。これらは、「健康な心と体」「自立心」「協同性」など10項目で構成される。各回答を1文ずつ確認し、文中に含まれる要素を抽出した。例えば、現職教諭の回答の一部として「新たな問いが生まれる」という記載があり、これを幼児期に目指す姿のうち「思考力の芽生え」として抽出した。表4は、現職教諭と養成課程における比較を行っている。設問7に対して含まれる要素数をX軸に示し、人数に対する割合をY軸に示した。

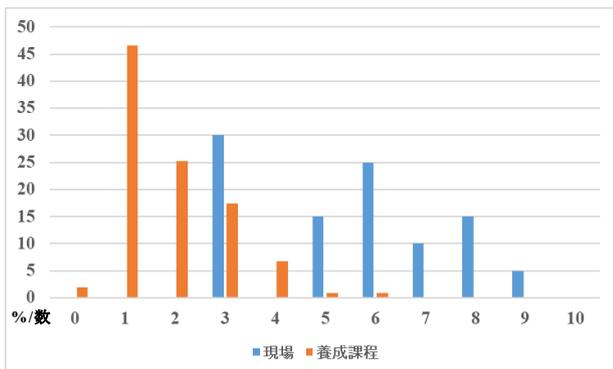


図4: 現職教諭と養成課程の要素数

## 5. 考察

結果から以下の現職教諭と養成課程の学生の異なる点を3つの観点に分けて考察する。

### 1) 実践の有無による違いの確認

一般的に現職教諭と養成課程の学生では、実践の有無によって考え方に違いが出る。本研究においても実践の有無と考えられる違いを確認することができた。

例えば、設問9「五感を使った体験は児童に対して、どのように影響すると思いますか?」における特徴語(表8)を確認すると現職教諭は「考える」「思う」「知る」「感じ

る」「使う」などの動詞が多く、幼児教育志望やその他の分類では、「感性」「発達」「影響」などの名詞が多いことがわかる。言いかえると、現職教諭はより実践に基づいた回答が多く、養成課程の学生は理論・概念的な回答が多いことが示された。

### 2) さつまいも掘りに関する捉え方について

設問7の特徴語(表6)を確認すると「土」「収穫」「掘」という語以外にも、「味わう」「感謝」「虫」「食べる」という語が抽出されている。また、設問7の対応分析(図1)を見ると、原点から見て「現職教諭」の方向に「苗」という言葉が現職教諭の特徴的な語として強く示されている。他にも、設問8の対応分析(図2)では、原点から見て「現職教諭」の方向に「形」や「過程」というような語も確認できる。まとめると、現職教諭は養成課程の学生に比べて「掘る」という活動を取り巻く、様々な活動に対して価値を見いだしていることが示唆された。

一方で、設問7の対応分析(図1)における「幼児教育希望」の方向には「友達」「協力」という語が特徴語として示されており、養成課程の学生は、現職教諭に比べて、協働的(協同的)な学びとして捉えていることが示された。

### 3) 幼児期に目指す姿を参考にした要素数

図4の幼児期に目指す姿に関わる要素数を確認すると、養成課程は、要素が1つのみの回答が最頻値となっており、2つ以上の要素を挙げる回答は徐々に少なくなっている。一方で、現職教諭は少なくとも3つ以上の要素を含む回答がされている。

現職教諭は養成課程の学生と比べて、「さつまいも掘り」という活動を多面的な学びの場として捉えていることが示唆された。

## 6. 展望と課題

本研究では、藤沢市のHPに記載される幼稚園すべての園に送ったが、回答された所のみが対象となる。また、大学での回答も100

件を超えているが1校のみのため大学や地方によっては差異が生じる可能性がある。さらに回答の負担を減らすために回答形式を分けたが、形式による回答結果の差異がある可能性がある。また、今回の現職教諭の回答として園長や副園長など比較的広い視点を持った立場の方の回答となっている。初任や歴の浅い教諭ではまた異なった回答となった可能性も高い。

本研究では、探索的な調査としての位置付けのため、調査の限界を留意しつつ、今後の研究を発展させていきたい。具体的には、現職教員と養成課程の学生の比較を踏まえて養成課程におけるプログラムの開発や実践を行っていききたい。

## 7. 研究のまとめ

本研究では、今日、学校教育で求められている「生きる力」の基盤を担う「幼児教育」に焦点を当て、現場に関わる教諭と養成課程の学生に質問紙調査を行った。

結果として、現職教諭20件、養成課程の学生103件の回答を得た。考察として特に、「さつまいも堀り」という活動を現職教諭は養成課程の学生に比べて、より多面的な学びとして捉えていることが示唆された。

こうした違いをもとに、養成課程の学生向けの教育プログラムの開発など、発展が望まれる。

## 謝辞

本研究に協力して下さった藤沢市の幼稚園教諭の方々、k大学の関係者及び学生の方々にこの場を借りて感謝申し上げます。

## 注

- (1) 幼児教育の意義及び役割, 文部科学省,  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1395402.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1395402.htm).  
(2026年2月7日確認)

- (2) 幼稚園教育要領解説, 文部科学省,  
[https://www.mext.go.jp/content/1384661\\_3\\_3.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1384661_3_3.pdf). (2026年2月7日確認)
- (3) 幼稚園・幼児教育施設, 藤沢市,  
<https://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/hoiku/kenko/kosodate/yochien/shiritsu.html>.  
(2026年2月7日確認)
- (4) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿, 文部科学省,  
[https://www.mext.go.jp/content/1422303\\_08.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1422303_08.pdf). (2026年2月7日確認)

## 引用文献

- 秋田喜代美(2019)「社会情動的スキルの重視とその育ちを支える幼児期の重要性」『日本教材文化研究財団』49, 8-14.
- 青戸泰子・菊地愛未・田邊資章(2019)「保育・教育現場における行事活動の意義」人間環境学会『紀要』32, 1-11.
- 樋口耕一(2025)『社会調査のための計量テキスト分析【第2版】内容分析の継承と発展を目指して』ナカニシヤ出版.
- 樋口耕一・中村康則・周景龍(2025)『動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング—フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析—』ナカニシヤ出版.
- 金城紅杏・趙彩尹(2025)「乳幼児期における嗅覚の多面的影響と保育実践への示唆—日本・海外文献を対象とした文献レビュー—」『Journal of Inclusive Education』14, 180-201
- OECD(経済協力開発機構)『社会情動的スキル学びに向かう力』明石書店.
- 鈴木裕子(2021)「幼少期におけるからだを動かす遊び経験と非認知能力の関連性」『愛知教育大学幼児教育研究』21, 27-36.
- 吉野満里恵(2025)「幼児教育における自然環境への関わりと幼児の育ち—実習生から見た環境教育の実践活動—」『東京学芸大学リポジトリ』34, 47-68.